

—牧師室から—

なか伝道所の渡辺英俊牧師が代表をしている「カラバオの会（寿・外国人出稼ぎ労働者と連帯する会）」が、横浜弁護士会の創設した第一回の「人権賞」に選ばれた。私のところにも、横浜弁護士会から人権擁護に貢献のあった人や団体を推薦してほしいとの連絡があった。渡辺牧師を推したいと思っていたが、推薦状を出しそびれていた。カラバオの会の受賞が報道され嬉しかった。渡辺牧師も出稼ぎ労働者の人権問題が人々に関心を持ってもらえると喜んでおられた。ところが、渡辺牧師は選考委員の桜井よし子氏（元・ニュースキャスター）の発言を聞いて受賞を辞退された。桜井氏は「従軍慰安婦の強制連行はなかった。（従軍慰安婦という）境遇に陥った人々がそれなりのビジネスとしてやった。（植民地化について）日本人としては朝鮮半島の人を日本人並みに引き上げようとした」と講演したらしい。

人権侵害の被害者をさらにおとしめるような発言をする人が選考した「賞」は受けられないと辞退

された。渡辺牧師はキリスト新聞に、教会の責任にも触れながら次のようにコメントしている。「今回の桜井さんの発言の内容は、加害責任の自覚がないことが問題だ。この点ではキリスト教会も同罪で、十五世紀以降の植民地支配や、1970年代、万博に象徴される多くの日本の資本による海外進出が、『被収奪地域』から『収奪地域』への労働者の移住の流れをつくりあげてきた。このことにキリスト者がどれだけ責任を感じているだろうか。そのような意味で、移住労働者の問題は、キリスト教の歴史的責任という神様からの問いであり、また神学的な問題である。」

最近、従軍慰安婦問題を始め南京虐殺、ナチスのガス室などはなかったという発言が目立つ。これだけの証拠と証言があるにもかかわらず、否定するのは何故なのか。その背景を不気味に思う。キリスト教は十字架を中心に据えている。十字架は「罪」の集約である。罪を見据え悔い改め、赦しを乞う。そこに新生が約束され、新しい歴史が開かれていく。

週 報

1997年2月2日 降誕節第6主日

巻17 44号

1996年度 教会主題

「キリスト告白に生きる」

聖句 イエスは言われた。「それでは、あなたがたはわたしを何者だと言うのか。」シモン・ペトロが、「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えた。

マタイによる福音書 16章15節～16節

- 目標
1. 生活を整え礼拝、諸集会を守る。
 2. キリストを証しする。

日本キリスト教団

横浜港南台教会

〒234 横浜市港南区港南台7丁目8-29

電話 045-833-5323

FAX 045-833-6616

振替 00290-4-13994

牧師 秋吉隆雄